

少女とシロクマ

^{さく}作 ディナ・クスヌリナ





朗読音声のダウンロード Audio download

ょ まぇ ★読む前に Before you read

たどく s かた **(多読の読み方)**

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本 語を身につけていく方法です。

っき 次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

- 1. やさしいレベルから読む
- 2. 辞書を引かないで読む
- 3. わからないところは、とばして読む
- 4. 進まなくなったら、他の本を読む



《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

- 1. Start from scratch.
- 2. Don't use a dictionary.
- 3. Skip over difficult words, phrases and passages.
- 4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.

ここは、冬が一年中続く北ロシアの小さな村です。 このあたりには人間とともに、シロクマも暮らしています

ある日、小さな二匹のシロクマが村に来て、

の ちい にひき むら き

雪の上で遊んでいました。ゆきょうえょかそ

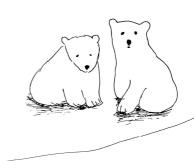
それを、少 女が見つめていました。

遠くから三人の男が 少女は分厚いコートを着て、家の外に立っていました。

見ただけですぐ分かりました。 その 男 たちがシロクマを獲る悪い人たちだということは 村の方へ向かって来るのが見えました。
むら ほう む

それを見た 男 たちは帰って行きました。 ^^ ホーピ ド

少女は小さなシロクマのところへ走って行き、隣に座りました。



この村は、町から遠いところにあります。

少 女は母親と二人で暮らしていました。

女たちは家で仕事したり、動物の世話をしたり、 村に残っているのは女と子供と年寄りだけでした。むら のこ 食べ物を作ったりしていました。た もの っく 村の 男 の人たちはみんな戦争へ行っていました。セセ。 ホヒニ ロピ



子供たちは母親を手伝っていました。

毎日は同じように過ぎていきました。

まいにち おな

このさびしくて白い世界では

一年のうちで一番寒い時期になりました。いちねん

家を 暖 めたりしなければなりません。 少女はいつも母親を手伝いました。

ははおや てっだ 家族や動物に温かい食べ物を作ったり、かぞく どうぶつ あたた た もの つく この時期は仕事が特にたくさんありました。



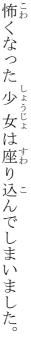
ところがある日、母親が 病 気になってしまいました。

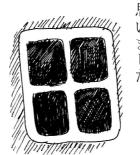
夜になるとさらに具合が悪くなりました。ょる くまい きる くまい きるい かるい もるい もるい しつものように 働 くことができません。

呼ばなければなりません。 を中でしたが、すぐにお医者さんを りしゃ 少女はなんとかして母親を助けようと思いました。

町までの道は歩いて行くには遠く、まち みち ある いとおとおと者さんは町に住んでいます。

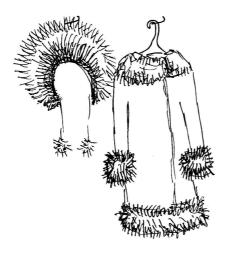
夜中はとても危険でした。ょなか





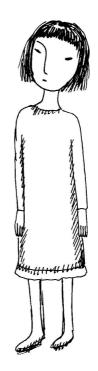


でも少女は何かしなければならないということはよく分かっていました。 しょうじょ なに



少女は立ち上がって分厚いコートを着て帽子をかぶり靴を履きました。しょうじょ た ぁ ぶあつ







星が道を教えてくれるといいな、 と少女は思いました。 一人では道がよく分かりません。 その町に行ったことはありましたが、 父親が家にいた時、父親といっしょに

ちちおや いえ とき ちちおや

少 女はもうこれで終わりだと思いました。↓レヒラヒー キャ ***シロクマは人間を食べることもあります。

シロクマはゆっくり近づいてきました。



少 女は怖くて、 両 手で顔を覆って泣きなり 女は急がなければなりませんでしたが、少 女は急がなければなりませんでしたが、 少女のコートに触りました。 ^{とお} シロクマはすぐそばに来て き 両手で顔を覆って泣き始めました。

次の瞬間、 少 女を食べようとはしませんでした。 お腹がすいているはずでしたが、 シロ シロクマの上に乗せられていて、 目を開けてみると、
ゅ
ゅ 少女は何か柔らかいものに乗せられてしょうじょ なに ゃゎ どこかに運ばれているように感じました。

町に向かっていることに気がつきました。

まち
む クマはこの時期、



村に帰って行きました。数分後、少女はお医者サラふんご しょうじょ いしゃ 車なるま お医者さんは母親の具合をみて薬をくれました。 村に着くと、 シロクマはどこにもいませんでした。 そして、お医者さんの家に向かって走りました。 少 女は地面に降りてシロクマを抱きしめました。レーッラ゚ヒッ゚ ピック゚ ギ 二人はようやく町に着きました。 の中から少女は外を見ましたが、 少女はお医者さんといっしょに 車に乗ってしょうじょ いしゃ



雪の上で遊んでいます。ゆきょうえょあそ 小さなシロクマが二匹、

彼らはよく村に来るようになりました。 しょうじょ 女は遊んであげたり、

いっしょに仲良く暮らすようになりました。 シロクマの親子は少女の家の近くで、 よく顔を見せるようになりました。



母親のシロクマもははおや

時々食べ物をやったりしました。ときどきたもの

少女とシロクマは、 お互いの一番大切なものを助けたのです。 たが いちばんたいせっ たす

ロシアの留学生、ディナさんが文を書き、お姉さんのスヴェトラナさんが絵 を描きました。

^{しょうじょ} 少女とシロクマ

2017年12月22日 発行 文: ディナ・クスヌリナ

え、 絵:スヴェトラナ・クスヌリナ が&しゅう 監修:NPO多言語多読

MPO多言語多読 tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/